

(1) 飼料用とうもろこし（子実または青刈り）

ア 各病害虫の防除

黒穂病

根腐病

アワノメイガ

アブラムシ類

カラス、キジ、ハト、スズメ、ムクドリ、キジバト

ツマジロクサヨトウ

ア 各病害虫の防除

【留意事項】

(□は総合防除計画に掲載している病害虫)

- ・飼料用とうもろこしには、「飼料用とうもろこし(子実)」と「飼料用とうもろこし(青刈り)」があるので、ラベルを確認し農薬を選択する。(子実)または(青刈り)の記載がない場合はどちらも使用できる。

黒穂病

(耕種的・物理的防除)

- 1 3年以上あけて輪作する。
- 2 発病株は早期に発見し、胞子が飛散する前に埋没する。

根腐病

(判断、防除に関する措置)

- 1 8月上旬から9月上旬にかけて黄熟期以降の発生が多い。

(耕種的・物理的防除)

- 1 ほ場の排水を良くする。
- 2 生ふんの多量施用を避け、完熟きゅう肥の施用を心掛ける。
- 3 抵抗性の強い品種を選ぶ。
- 4 刈り遅れないよう適期収穫(黄熟期)を厳守する。

アワノメイガ

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 生物農薬は予防的に散布する。
- 2 発生が予想される場合には、薬剤を散布する。

アブラムシ類

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 発生初期に薬剤を散布する。
- 2 抵抗性が発達しやすいので、同一剤の連用は避ける

カラス、キジ、ハト、スズメ、ムクドリ、キジバト

(耕種的・物理的防除)

- 1 標準より深播きにし、鎮圧を十分行う。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#) [【カラス】](#)・[【キジ】](#)・[【ハト】](#)・[【スズメ】](#)・[【ムクドリ】](#)・[【キジバト】](#)

- 1 薬剤を塗沫処理する。

ツマジロクサヨトウ

(耕種的・物理的防除)

- 1 発生確認時、草丈が高く薬剤散布が困難な場合や隣接ほ場へのドリフトが懸念される場合は、早期刈り取りまたはすき込みを実施する。
- 2 収穫が可能な場合、早期刈取りを行い、刈取り後は速やかに耕うんする。
- 3 直ちに収穫が困難な場合は、速やかにすき込みを行う。すき込みの深さの目安は12cm以上とし、2回以上実施する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 生物農薬は予防的に散布する。
- 2 発生初期に薬剤を散布する。
- 3 老齢幼虫には効果が低下するため、若齢幼虫のうちに防除する。